

■ 事業の趣旨 ■

「未来を築く子育てプロジェクト」は、3つの募集事業によって、すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援します。

「エッセイ・コンクール」

子育て・子育てにまつわるエッセイを幅広く募集します。

地域社会や家族ぐるみで助け合う事例など、子どもが社会性を習得し自立するための創意工夫のある子育てを紹介します。子育ての苦労を乗り越え、子どもが自立していく過程で、周囲が得る気づきや喜びなどの「子育てのすばらしさ」を伝えていきます。

「子育て支援活動の表彰」

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特長的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭します。

「女性研究者への支援」

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

目次

事業の趣旨	2
ごあいさつ	3
講評	4
エッセイ・コンクール	6
子育て活動の表彰	12
スミセイ女性研究者支援	18
第1回「未来を築く子育てプロジェクト」表彰式・懇親会の様子	21
第1回「未来を築く子育てプロジェクト」受賞者の近況	22

ごあいさつ

「未来を築く子育てプロジェクト」実行委員長

堀田 力



選考を通じて、家族や地域のあたたかさに勇気付けられ、人間社会の素晴らしさを教えられました。子育てが周囲の人を巻き込み、まちおこしにまでつながる可能性さえ感じたほどです。子育ては常に不安と背中合わせです。子育ての現場の声を広く社会に伝え、子どもを持つことで生きる喜びが倍になっていくような社会の仕組みづくりが必要です。本プロジェクトが今後の日本の子育てを社会全体で盛り上げていくような支援になればと思います。

【(財)さわやか福祉財団理事長、弁護士】

「未来を築く子育てプロジェクト」実行委員

横山 進一



今回から厚生労働大臣賞に加え、内閣府特命担当大臣賞を授与していただけることとなり大変うれしく思います。選考を通じて、感動したことも多かったのですが、一方で待機児童の問題や子育てに対する周囲の理解の少なさなど、厳しい子育て環境もより一層明らかになりました。受賞事例を中心にさまざまな子育ての可能性を広く社会に伝えていくことがプロジェクトの使命であると感じています。本プロジェクトを通じて、子育てのもつ「素晴らしさ」や「よろこび」を感じていただければ幸いです。

【住友生命保険相互会社取締役会長】

募 集 結 果

第2回「未来を築く子育てプロジェクト」では、2008年6月から9月までの間、「エッセイ・コンクール」、「子育て支援活動の表彰」、「女性研究者への支援」の3部門の募集を行いました。

「エッセイ・コンクール」には886編、「子育て支援活動の表彰」には160組、「女性研究者への支援」には147名のご応募をいただきました。

12月初旬に開かれた実行委員会で最終選考が行われ、各部門の受賞者が決定しました。

	応募数	
エッセイ・コンクール	886	内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞／最優秀賞から1編 厚生労働大臣賞／最優秀賞から1編 最優秀賞／5編 優秀賞／20編
子育て支援活動の表彰	160	内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞／未来大賞の1組に授与 厚生労働大臣賞／未来大賞の1組に授与 未来大賞／未来賞から2組 未来賞／6組
女性研究者への支援	147	スミセイ女性研究者支援／11名

「未来を築く子育てプロジェクト」実行委員 講 評



池田 守男



今回の選考を通じて、改めて人間の温かさや生きることの素晴らしさを感じさせられました。日本古来の、家族と地域社会の絆と力を徐々に取り戻しつつあることに意を強くしました。行政や経済団体主導の子育て支援に頼るだけでなく、子育ての現場にいる皆さんが自発的かつ積極的に、喜びを持って子育てに取り組まれた成果が徐々に現れてきている姿に感動しました。今後は、子育て支援から地域の活性化につながる知恵等を共有し、多くの方々に子育て活動のサポートの輪へ加わっていただけることを期待しています。

【株式会社資生堂相談役】

大日向 雅美



今回の受賞団体は、地域に根ざした質の高い活動が多くみられ、本プロジェクトのユニークな支援を象徴する結果となりました。本助成が、地域の特性を生かした活動に光を照らし、日本の子育て支援をいっそう盛り上げていく契機となることを期待しています。

また、女性研究者への支援では、女性にとつて子育てと研究の両立が相変わず厳しい環境にあることを考えさせられました。昨年に比べて、壁を乗り越える意欲と工夫に満ちた応募が増えていることをうれしく思いました。子育ての苦楽が人文社会科学領域の研究の幅を拓け、質を高めてくれることを確信するとともに、女性たちが、しなやかさとしたたかさの両面をもつて、研究者としての人生を切り開いていけることを、願っております。

【恵泉女学園大学大学院教授】

奥山 千鶴子



エッセイを通じて、子育てに対する切実な叫びや喜びなど生の声に触れ、たくさんの方の元氣と勇氣をもらいました。子育て支援の原点に立ち返り、多様な子育てのあり方を示唆する作品も多くありました。日本の新しい子育て支援につながるきっかけになればと思います。子育て支援活動の表彰では、世代を超え、進んで子どもたちのために活動し、子育てをサポートする姿に感銘をうけました。また、一人ひとりの積極的な参加が、子育て支援活動を盛り上げ、まちづくりにもつながる活動になることを期待します。

【特定非営利活動法人びーのびーの理事長】

金田一 秀穂



女性研究者への支援は、困難な環境の中で子育てと研究を両立し、着実に研究成果を上げている応募者が多く、同じ研究者として心打たれました。当初の予定より多い11名を支援対象としましたが、すべての応募者から高い研究意欲が十分に感じ取れ、本当に難しい選考でした。少ない支援の中で頑張る女性研究者の姿は、研究者に限らず子育てにかかわるすべての人に共通する現状ではないでしょうか。本プロジェクトが、女性の子育てと仕事・研究の両立だけでなく、周囲の理解促進にもつながるきっかけになればと思います。

【杏林大学外国語学部教授】

吉永 みち子



エッセイは幅広いテーマの作品が集まり、とても楽しい選考になりました。子育ては父親の権利であるという主張や若い叔父さんが姪の子育てに参加する事例などは、新しい子育て観を切り拓く作品だと思っています。これからの子育ては男女が協力し合って子どもを支える姿であってほしい。そのためにも、今後は女性だけでなく男性を支援する活動の充実にも期待します。一方、仕事・研究か子育てかの選択を迫られ、どちらかを断念している女性もまだたくさんいるのも現状です。未来の子育ての姿を男女も社会も共有できることを願っています。

【作家】

父親の権利

清水 徳子【岐阜県】



我が家には、三歳、二歳、二ヶ月の三人の娘がいる。育児が楽しいとか、大変とか落ち着いて語る余裕はまだない。

初めて妊娠した時、私はいろんな意味でパニックに陥った。夫は学生時代の先輩、お互い就職してマンションを借り、『ダブルインカムノーキッズ』のきままな生活を送っていた時

だった。

学生時代、就職してから、結婚してからさえ男女の違いを深く感じる事なく生活していた。家事、炊事、どちらがしても違和感はなかったし、仕事で帰りが遅くなれば外食もした。余暇はテニススクールや、ジムに通ったり、毎年ちよつとした旅行もしていた。

妊娠、出産を機に生活はガラリと変わった。今までのようにできないことは、山ほどあった。なれない育児生活でストレスもたまった。

妊娠、出産は女の人にはできないのだと初めて男女の違いを深く感じた。と、同時に一人でいろんなものを背負い込んでいえるように思えてイライラした。「しよせん男の人に出産はできないのよね。大変な思いをして産んだのは私！

おっぱいをあげるのも私！」何度も夫に入つ当たりした。育児休暇を取得して家にこもり、働く女の人をうらやましく思ったりもした。「男の人はいいよね！ 女はいつも色んな選択を迫られる。」

夫はいつも黙って聞き流していた。そしてある日こう言っ

た。「父親にも育児をする権利がある」責任だけじゃないのか、権利なのか…半信半疑ながら心に残る言葉だった。言葉通り、夫は仕事から帰ると、風呂に入れ、夜泣きにつきあった。

当初、私は娘が一歳になったら復職するつもりでいた。まだ歩けない娘を連れて保育所の見学に行き、泣いてしがみつく娘の様子に復職する決意がガラガラと音をたてて崩れていくようだった。悩んでいるうちに、二人目の子を授かり、復職を延期して現在まで奮闘育児生活が続いている。

三人目の出産に伴い、夫は育児休暇を取得した。会社では男性初の休暇取得者になったようで、上司も賛成の人や困惑する人がいたようだ。が、後押ししてくれるような人もいて取得することができた。

悩んだ末に思い切って取得した八週間の育児休暇、家族で過ごした時間はかけがえのない時間だった。言葉通り家事に育児に明け暮れて、休暇なのに休日なんてない。どこに出かけるわけでもない。でも、家族で揃って食事ができる。育児の悩み、子供の成長を語り合える夫がいつもそばにいる。それが本当に心強かった。勇気ももらった。

女性の働く権利が叫ばれるのと同様に、男性が育児する権利ももっと認められていいんじゃないかと思う。三人目の子が一歳を過ぎたら、五年ぶりに復職しようと考えている。

受賞の言葉

受賞の知らせに本当にびっくりしています。自分の体験をとおして感じたことをそのまま表現しました。少しでも共感していただける部分があればうれしく思います。まだまだ迷うことの多い生活ですが、周囲の方々のサポートに感謝しながら、少しずつ進んでいきたいと思えます。

我が家は緊急保育園!?

辻 真帆【東京都】

それは一本の電話から始まりました。長男三歳、長女まもなく一歳。長女の育児休業中の事です。「今日うちの娘のお迎えをお願いしたいんだけど。どうしても仕事が終わらなくて……」長男が通う保育園の同級生、Sちゃんのママの申し訳なさそうな声。「任せといてー!」一瞬脳裏に不安もよぎる。「よその子預かって大丈夫かな?」でも次の瞬間「どうにかなるさ!」そして肉じゃがはシチューに変身、ご飯はパスタに姿を変えてお待ちかね。



保育園から帰るといつもなら兄妹二人「ダッコー」だの喧嘩だので夕食のしたくもままならないけれど、Sちゃんが入り三人が程よい緊張感を持って遊んでいる。たくさん食べてくれると嬉しいし、子供たちで入るお風呂はプールと化す。後からママも合流して思いもかけずおしゃべりタイムのご褒美まで。なあんだ、堅苦しく考えることないじゃない。

程なくして私も会社に復帰。慌しい毎日が始まり今度は私が「今日お願い!」と頼むことに。こうしてピンチのときに子供がお互いの家を行き来するようになったのです。

更にしばらくするとSちゃんに弟が誕生します。お母さんが出産で入院中は他の同級生のお友達と交代でSちゃんを預かり、なんと若干四歳で我が家に一人でお泊りまでしたSちゃん。なんだかもうよその子という感じがしません。夫もSちゃんが来る日はいそいそと早く帰ってきて絵本を読んだり人間ジャングルジムになったりと大活躍です。

ワーキングマザーなんて家と会社と保育園の三角形をぐるぐる回っているだけだと思っていた。入園して一、二年は顔と名前が一致しないし保育園で会うお父さんお母さんはお互い忙しそうで挨拶程度。保育園でママ友なんて無理! 寂しいけどそういうものなのよ、そう思っていた。

それでも二年目を過ぎる頃から徐々に徐々に立ち話をしたり転園する子供の送別会をやったりしているうちにメール交換をするようになり、とうとうこんな緊急シッターまでできるようになってしまった。

へええ三角形だけじゃないんだな。こうやってどんどんひろがって五角形になり十角形になっていけばいいな。

もちろん、いつでも気軽に頼めるシッターさんがもつと普及するとか、病児保育が増えて欲しいとか、子育ての状況により柔軟な勤務形態を選択できる制度の確立とかいろいろ要望希望はあるのです。でも「今日は○○ちゃんちで待っていてね。」なんて言えば子供も嬉しいし親も安心。預かる方も普段なかなか見られない子供同士の関係が見られて得した気分。

そんな我が子同様の保育園児がどんどん増えていきそう嬉しい今日この頃なのです。

受賞の言葉

その後も本稿主役のSちゃんはじめ、息子のクラスメイト達は毎日泣いたり笑ったり兄弟のように育っています。そんな日常の出来事が思いもかけず立派な賞となり感謝の気持ちでいっぱいです。慌しい生活を送っていますが、保育園は親だって楽しい!と実感しつつ皆様にこそそれが伝わればうれしく思います。

これから、おじさんとして

佐藤 真貴【福島県】

「ほら、抱っこして」

急に抱っこなんて言われても、
いままで産まれたばかりの赤ん坊
を抱いたことがない僕は、どうし
たらよいかわからない。

「大丈夫。腕のところを頭を置く
ようにして、片方の腕でおしりを
かかえて」

そう言うと、姉は躊躇する僕の
胸に赤ん坊を押し当てた。僕はとつさに、両腕を言われた
通りの形にし、赤ちゃんをなんとか抱っこした。

ち、小さい！ しかも、軽い！ これが赤ちゃんなんだ！
緊張の時間が始まった。

少し抱え方を変えようと、頭が乗っている左腕の脇の下
を空けた。すると、腕が坂道となったために頭部が回転し、
今まで僕の胸の方向に向いていた顔が、一八〇度違う方向を
向いた。

（おおっと！）

とつさに脇を閉め、首が元の位置になるようにゆっくり
と自分の胸の方に引き寄せた。

焦った！ 首がねじれてもぎれ、ポトン、と落ちてしま
うのではないかと思った。同じ人間のはずなのに、赤ちゃ
んというのは、なんだかもろくて柔かい。

「お姉ちゃん、はい、返すよ」

そう言っつて赤ん坊を姉に渡そうとしたときだった。

「見て。おっぱいはしがってるよ！」

上から自分の胸の辺りを見ると、右の頬を僕の胸にびっ



たりとくっつけた甥の口元が、大きく開いたり閉じたりしている。
以前、テレビで見たことがあった。目がしっかりと開かない段階
でも、頬や口元に力が加わると、乳首を求めるように本能的に唇
を動かすことがある、と。あつくんは、Ｔシャツの上から僕の乳
首を探している。はずかしい。でも、か、かわいい！

「あんたもいよいよおじさんだね」と姉。

無事に赤ちゃんを渡し、僕は二階の自分の部屋に戻った。
ふうー。「おじさん」かあ。緊張して抱いていたせいか、肩が凝っ
ている。もつと上手に抱っこしてあげればよかった。そのために
は、後頭部をこんなふうに腕に乗せて……僕はいつの間にか枕を
持つて練習していた。

子育てはとても大変だと聞く。中には育児ノイローゼになっ
てしまう人もいるらしい。お姉ちゃん、自分が疲れて、旦那さんも
忙しかつたら、俺のところに来いよ。いつでも子守してあげるか
ら。それまでもつと上手に抱っこできるようなしておくよ。

あの子が大きくなったら、キヤッチボールを教えてあげよう。
ふわふわした赤ちゃんが、がっしりした少年に育つことを想像す
ると、胸がワクワクしてくる。

あつくん、おじさんをこれからよろしくな！

【受賞の言葉】

産まれたての赤ちゃんを抱いたとき、不思議と「俺も一緒に育てるぞ！」という気持ちになりました。男にも本来、子どもを育てたい、という気持ち
が備わっていると思います。それを十分に生かせば、日本中の母親の子育て疲
労がなくなり、赤ちゃんたちもぐんぐん育つと思います。

娘をかわいいと思える日が来るまで

中津 直子〔広島県〕

出産するまで、子どもを産んだら瞬時に幸せになれると勝手に思い込んでいた。

午前二時の泣き声でそれは勘違いだと気付かされる。「うわーん」はじめはかぼそい声だが段々と大きい声に変わっていく。



おむつかなく。げっうんちもし

てる。強く持つと壊れてしまいそうな娘の足を持ち上げおしりを拭く。次はおっぱい。手を洗いにいくが、その間も娘は泣いていて、いたたまれない気持ちになる。抱っこして、おっぱいを片方五分ずつ、各二回で合計二十分飲ませる。母乳だけでは足りてないようなので、次はミルク作り。粉ミルクを溶かして流水で冷ます。娘は「早く〜」というがごとく、泣いている。ミルクの次はげっぶ。慣れない手つきで立て抱きにして試みるが、げっぶが出ない。十五分経って諦める。さあ、寝てくれ。母の願いだ。「うわーん」号泣。なんで？ どうして？ おむつもきれいにしたよ、おなかもいっぱいになったよね。どうして泣くの？ という疑問符が頭の中をぐるぐるまわる。気が付くと二時間経っている。新生児は三時間おきに授乳するので、一時間後また授乳だ……とイライラが増長する。ベランダで子守歌を歌い、泣く我が娘を抱きながら涙がぼろぼろ出た。娘がかわいいと思えない。「かわいいよね」という夫の言葉に腹が立つ。虐待する人の気持ちがよく分かる。こんなんじや母親失格だ。他の人はこんな風に思うわけがない。出産後一ヶ月、幸せに満ち溢れるはずだった私は、心身共にぼろぼろだった。

そんな私が変わったのは町内の子育て支援サークルに行き出したからだ。

七月、蝉の鳴き声がうるさいくらいの日だった。「暑い中、よく来てくれたね。」

私と娘を迎えてくれたのは自分の母親くらいのボランティアの人だった。児童館にマットが敷いてあり、赤や黄色の原色のおもちゃが所狭しと並んでいた。一時間、他のママたちやボランティアの人たちと話をすることで、イライラしていた私は、穏やかな気持ちになっていった。

そんな私の気持ち伝わったのか、娘は「あーあー」と笑いながら声を出す。

「いい声が出るね。家でもママがよくお話してるんだね」とボランティアの人が言ってくれて、初めて認めてもらった気がした。

私は子どもを産むまで一円でも自分が得をするように生きてきた気がする。このボランティアの人たちはどうだろう。暑い中、児童館まで来て、会場を準備して、ママたちの話し相手になる。時には愚痴を聞き、時には悩み相談を受け、笑顔でママたちを送り出す。

ただただ、感謝、感動した。私も自分中心でなくて、人の役に立つことができる人間になりたい。娘に恥ずかしくない生き方をしたい。月に数回ほつとできる場所を見つけた。こうやってサポートしてもらい、今の私は、誰がなんと言おうと世界一娘がかわいい、私は幸せだと胸を張って言える。

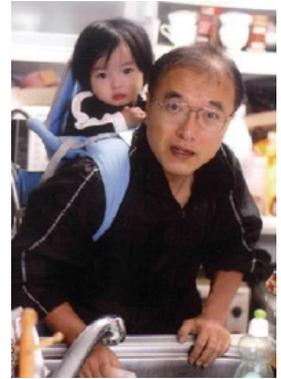
【受賞の言葉】

素晴らしい賞をいただき本当にうれしく思っています。この喜びを育児サークルのボランティアの方に感謝とともに伝えたいと思います。また、日ごろ私を支えてくれる夫や両親、義理の両親、そして愛しい娘に改めて感謝したいと思います。

元氣な親父とじいさんを目指して

古家 茂臣【熊本県】

私は五十五才、現在一才の男児の父親である。別にやつと子どもができたわけではない。実は再婚で、前妻との間に二十四才を頭に四人の子どもがいるのだが、これまで「子どもは水きえやつとけば自然に育つ」という考えだった私は、生まれて初めて父親として役割を持った子育てをすることになった。



二十数年前、私の最初の父親時代の話、前妻が子育てのため家で忙殺されていても、私は、ほとんど毎日の様に外で飲んでた。男なんか子育てには何の役にも立たない。日本男児たるもの、子育てには口も出さないが、手も出してはいけなさと信じていたからだ。そして最初の結婚での子どもたちも、成人し、巣立つと同時に、教育上の方針の違いから、妻も私の元を去って行った。家庭を失って初めて、そのありがたみが分かったのだが、時既に遅しで、私は一人になってしまった。

こうした失敗を反省し、今度こそ、ちゃんと子育てもきちんとやりたいと思っていたが、その思いが神に通じたのか、五十才過ぎてから、今の妻と再婚、長男にも恵まれた。まさに敗者復活戦である。

だが、妻は私より十七才年下で、「おとこたるもの子育てには……」なんていう考えはまるで通じなく、子育ては夫婦一緒にやって当たり前という考え方なので、私は今風の子育てをすることになってしまった。

妻は、体がきしゃやで、余り体力がないせいか、専業主婦なのに家事が苦手、彼女は手伝いはするが、基本的に私が中心となり家事・育児をこなしている。

料理は元々得意だったので苦にはならないが、息子の夜泣きには少々

まいっている。前の子どもの時は、「うるさい、明日仕事にならない！」と言って、隣の部屋で寝たものだが、今回はそうはいかない。泣き続ける息子を「こちらが泣きたいよ！」と思いい、眠りかぶりながらあやしている。「抱いたら抱き癖がつく」なんて言う人もいるけれど、そんなの迷信だと思う。どんな泣いている子も、愛情を持って抱き続けられ泣き止むものだ。

息子が病氣したら、休みをとって、病院へ行くし、市役所が実施する父と子どもの交流プログラムでは若いお父さんと一緒に頑張っている。この年になるまで、あまり関心が無かったのだが、子育て支援の仕組みがハード、ソフト共に社会には沢山あり、便利で心強くなっている。児童館や保健センターの利用から、各子育て支援のセミナー等、このベテランだけど新人の父親には非常に役にたっている。

しかし、前妻との間の成人した子どもの成長過程を考えると、まだまだ先が長いことが経験上、分かっており、気が遠くなる。ゴールと思つたら、また走れと言われたマラソンのようなもので、「この子が成人する頃は俺も七十代の後期高齢者か」と思うと、少々不安もある。

それでも、最近、息子は私を後追いつするし、毎日はいる風呂での仕事も可愛くて仕方がない。年とつた親父だが、この子にとっては一人だけの親父である。

親子なんてたまたま、同じ船に乗り合わせただけかもしれないが、乗った以上は力を合わせて生きて行かなければならない。私も息子から元氣をもらっているのだ、あと半世紀は生きる覚悟で頑張りたい。最近、妻の知人からは「お父さんですね、いつもお世話になってます」とか、私の知人からは「孫は可愛いでしょう」とか言われ、恥ずかしい思いもしているが、そんなの関係ない。息子のために「じいさんだけど元氣な親父になるぞ!!」

【受賞の言葉】

児童相談所で親と離れて暮らす子どもに接していますが、親の立場からは、何気ない子どもとの生活がいかに幸せかということを実感しています。二度目の子育て中の私の例はモデルケースにはなりませんが、若い女性だけが子育てをしているのではないと主張したくて応募しました。受賞は大変光栄です。

優 秀 賞

氏名	タイトル	都道府県
新井 由行	偽装 〃 父子家庭 〃	愛知県
石沢 由彦	空っぽの弁当箱	青森県
伊積 利恵	出会い	和歌山県
金山 三恵子	パパの本音―オッパイが欲しい―	兵庫県
菊川 眞由美	小さなお母さんたち	福岡県
金城 和幸	子どもとのバスデーケーキ	沖縄県
小林 美紀	かわいい子には旅をさせよう	千葉県
今野 芳彦	孫心の距離	秋田県
島 千春	トントんしよう	愛知県
鈴木 貴美子	みんなのヒーロー	東京都
高橋 志保	母と私と息子と	神奈川県
谷尻 知子	席を譲れる人	大阪府
新倉 書子	小さい勇気	東京都
野村 徹	男の子育てって？	東京都
長谷川 由香	「がんばってるね」の魔法	石川県
平原 節子	我が家は飛び世代(？)家族	神奈川県
茂川 真理	大魔王からの子育てヒント	静岡県
山田 良子	パンダさんあげよ	東京都
大和 まどか	親育て〜君に育てられて〜	神奈川県
渡邊 玲子	どこのどなたか存じませぬが…	香川県

NPO法人 ママ・ぷらす

【代表・川原 史子】愛知県海部郡甚目寺町

働くか子育てに専念するか

二者択一ではない新たな子育てを提案・実践

【活動内容】

育児中の母親が主体となり、母親の学びの場や、母親が趣味や特技を生かせる場を提供しています。主な活動の一つであるママサークルでは、託児付きのママ向け「文化講座」、サークル内で同じ趣味を楽しんだりチャリティー活動を行うなどの「ミニ同好会」、親子でふれあう「無料交流会」などを開催。現在は約320組の親子がメンバーとして参加しています。



ほか、ママが講師を務めるヨガ教室や英会話教室など各種教室・講座の運営、行政からの受託事業、託児ボランティアグループ運営など、多様な活動を行っています。

【活動の経緯・特徴】

子育て中の女性の多くが、「子どもを預けて働く」か「子育てに専念する」という二者択一を迫られます。しかし、子育てを選んだママたちの中にも、学びたい、キャリアを生かして活躍したい、新しいことに挑戦したい…など強い意欲を



持ち、育児中も自分らしく、充実した生活を望む女性は多いのです。「ママ・ぷらす」は、女性が子育てを優先しながらも社会とかわる場を提供し、子育てライフの多様化を目指すとともに、「ママ・ぷらす」をロールモデルとして、笑顔で活躍するママたちを全国に増やすことを目標にしています。

【運営について】

中心スタッフは7人、講師などとして活動に携わる運営メンバーが約40人、メール登録会員が約2000人。運営費は会費やイベント参加費、受託事業費などによりまかっています。常にニーズに応えた活動を続けるために、スタッフや運営メンバーの責任と労力に見合った報酬を支払えるシステムづくりが課題です。



【受賞の言葉】

「わたしたちの活動理念を、全国に広めたい！」その夢を叶えるきっかけを与えていただいたと思っています。今は受賞の喜びをかみしめつつ、新たなスタートラインに立てた気分です。

また、今回の受賞は、スタッフ一同にとって、今後の活動の大きな励みになることでしょう。本当にありがとうございました。

和歌山おはなしの会 語りの森

【代表・東 洋美】和歌山県和歌山市

活動開始から20年 語りだけでなく、語り手の育成や伝承あそびの普及にも尽力

【活動内容】

昔話やわらべうたを、地域の子どもたちに語って聞かせるほか、絵本・昔話・子どもをテーマにした講演活動も行っています。学校や公共施設で行っていますが、一昨年からは和歌山県立紀伊風土記の丘にある、移築された江戸時代の民家にて昔話を語っています。「語り」であって、読み聞かせではありません。純粹に語るだけの方が、聞き手もより集中します。

また、絵本の読み聞かせは明るいところでないといけません。が、語りは暗いところでもできるのが特徴です。7年前から、語り手の養成講座も随時開講しています。

【活動の経緯・特徴】

アメリカの図書館学の中から「ストーリーテリング」が生まれ、日本でも東京で運動が始まりました。それが、和歌山にも入ってきて、20年



【わらべうたがいっぱい】



【昔話の語り手養成講座】

前に「おはなし会」として始まったのが最初です。「語り」を行う活動そのものも重要ですが、語る「はなし」を残すことも重要と考えています。また、わらべ歌の収集にも力を入れています。活動を開始して20年、和歌山から転居などで全国各地に「語り部」が広がり、各地でその地域に根ざした活動を行っています。20年を契機に、同窓会的な「昔話大会」を開催したいとも思っています。

【運営について】

会員は30人で、当初の3倍になっています。養成講座の参加者は準会員としており、現在の講座参加者は15人。これまでに70人ほどが受講しています。最初のころに聞いていた子どもたちが親になる年代になり、新たな担い手になりつつあります。現在、数人の若いママが養成講座を受けています。

【受賞の言葉】

会ができて20年目です。その年に大賞をいただき、心からうれしい気持ちでいっぱいです。これからも目の前にいる多くの子どもたちに、昔話とわらべうたを語り続け、人の声に包まれる楽しさを伝えていきます。本当にありがとうございました。



ボランティアグループ あしかが子育て応援ネット

【代表・大島 裕子】栃木県足利市

乳幼児から学童・思春期まで幅広く子育てを応援 官民双方の情報を掲載した子育て応援ガイドを作成

【活動内容】

子育て応援ガイドの作成、HPの運営、母と子の交流広場の開設、弱視の子ども向けの拡大教材作成、発達障がいを理解するための市民講座の開催などを行っています。「子育て応援ガイド」は、行政の情報誌では掲載が難しい民間の子育て支援情報を掲載することができ

るのがメリットで、「幼児期編」「学童・思春期編（今年度はさらに「学童期編」「思春期編」に分けて）」の2種を発行しています。また、週に3回、未就園の子と親のための交流スペース「しゃんしゃん広場」を開いているほか、行政では対応していない弱視の子ども向けの地域教材を、教育委員会からの依頼によって制作しています。



【活動の経緯・特徴】

当初は「あしかが子育て応援ガイド」の発行による情報提供が中心でした。しかし、「保護者の方が楽しんで子育てができ、子どもたちがすこやかに成長すること」を願って活動しているうちにニーズが増え、現在までに「助産師による0歳児の子育てサロン開催」、「未就園児とその保護者のくつろぎスペースの運営」、「ハンディを持つ子どものためのボランティア」、「弱視の子どものための拡大教材の作成」、「発達障がいに関する講演会の開催」など、幅広い方々のサポートを実施してきています。



【運営について】

中心となるメンバーは15人程度。そのほかに個々の活動について、協力してくれる方がいます。また、資金面は基本的に行政からの支援は受けておらず、寄付で賄っています。「しゃんしゃん広場」は、会場を幼稚園から無料で借りていますが、運営費については、行政の委託が受けられるよう交渉しているところです。

【受賞の言葉】

私どもは、メンバー以外の多くの方の協力も得て活動しており、皆さまのおかげと感謝申し上げます。この不況でますます地方の財政は圧迫され子育て環境の悪化が懸念されます。『仕方ない』と諦めるのではなく、『できることから』を信念とし、今回の受賞を励みに、よりニーズに合った支援に真摯に取り組んでまいります。

NPO法人 三波川ふるさと児童館

「あそびの学校」

【代表理事・山崎 茂】群馬県藤岡市

古民家子どもたちのあそび場に再生
子どもも大人もホッとする居場所を提供

【活動内容】

「ALWAYS遊びの学校」や三波川ふるさと児童館「あそびの学校」を運営しています。「ALWAYS遊びの学校」は、市所有の古民家を無料借用し開設したもので、子どもが放課後に道草できる場所であり、近隣の小学校中学校から子どもたちが集まってきています。また、中高年も参加できるような活動を取り入れ、年代を超えた交流ができるようにしています。一方、三波川ふるさと児童館「あそびの学校」は、旧鬼石町の廃校を購入して整備し、春から秋にかけて、テントや野外活動などの子どもたちのあそびの拠点として開放しています。



【活動の経緯・特徴】

「子どもたちに豊かな自然、あそび、文化を伝えよう」をスローガンに「子どもも大人もホッとする居場所」を目指して活動してきました。当初は「あそびの出前」活動で、地域の神社や公園をワゴン車で回って紙芝居などをしていました。また、子どもたちにあそびを伝えることのできる人材を育成しようとして、「ALWAYS遊びの学校」で泥団子や粘土の型あそび、紙芝居などの講座を開いています。高齢者は、子どもに教えることだけでなく、自分の楽しみとしても参加されているようです。



【運営について】

運営スタッフは、趣旨に賛同してくれたボランティアです。施設は市より無料で借用していますが、運営の資金は講演の謝金や併設された駄菓子屋の売り上げで、厳しい状態です。それでも、高校や大学に進学した子どもたちが、運営スタッフとして戻ってきてくれると、やりがいを感じます。

【受賞の言葉】

山の廃校の木造校舎に夫婦で「あそびの学校」を開校し8年。ようやく山のかなたから暖かな日差しが昇ってきたと喜んでいきます。これからも未来を担う子どもを真ん中に、生き生きとした地域づくりの活動を地道に行っていきたいと思っています。本当にありがとうございます。

子育てボランティア 「ハートフル」

【代表・鶴原 伸子】福岡県遠賀郡芦屋町

過疎の町を子育てしやすい町に

子育てフリースペース「にこりん」を商店街に開設

【活動内容】

芦屋町は過疎の町で親子が気軽に集える場がなかったため、昨年より商店街の空き店舗を借りて、週3回の子育てフリースペース「にこりん」を開設しています。これまでは、公民館などで、年数回、講演会や座談会を行ってきました。「子どもは町の宝」という認識は、町や町民にもありますが、「母親も町の宝」であるという認識も大切ではないかと思っています。「にこりん」は、育児中の母親の息抜きと交流の場です。「お勧めの店のマップ」作りやお弁当を持ち寄りのランチタイムは好評です。商店街の振興にも役立てばと思っています。

【活動の経緯・特徴】

主婦6人で芦屋町の子育て調査を行ったことがきっかけで、活動を始めました。芦屋町は自衛隊員の家族



や他の転勤者などもあり、孤立した子育てになりやすい環境にあるといえます。アンケート調査の結果から、若い母親は「どうしたらいいか?」と悩む一方で、年配者は「どこで支援できるか?」と悩んでいる様子が分かりました。双方をうまくためにも、「子育て支援センターを開設してほしい」と町に働きかけました。が、財源がなくいまだに実現していません。「子育ては待ったなし!」という思いから、有志で「にこりん」を始めました。



【運営について】

「にこりん」は参加費無料、運営資金は「ハートフル」の会費や空きスペースの利用料と各種助成金です。また、ボランティアのサポーター15人が2人ずつ交代でサポーターに入っています。サポーターは子ども連れの若い人から年配の人まで三世代にまたがっています。

【受賞の言葉】

受賞の知らせをいただいたとき、若いお母さんや子どもたちの喜ぶ顔が目に見えかけました。みんなの思いと、これまでの活動ひとつひとつの積み重ねが、カタチになったスペースです。これからも、たくさんのお会いと可能性が広がるよう、知恵と力を出し合っていきたいと思えます。希望の光をありがとうございます。

NPO法人 発達障害を考える会・TRYアングル

【理事長・宇和川 美保】兵庫県伊丹市

発達障害を持つ子どもと保護者を支援

行政や企業を巻き込んだ社会環境づくりを目指す

【活動内容】

基本的な活動は、発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害など）の子どもたちと保護者への支援です。具体的には、子どもの学習方法の支援、保護者の相談、ペアレントトレーニング、アサーショントレーニング、勉強会、講演会などを行っているほか、社会への啓発活動にも力を入れています。児童・生徒向けの紙芝居や4コマ漫画などから、一般向けのパネルや小冊子の発行などを行い、幼稚園・小学校・中学校・高校や公民館、教育委員会などでの講演、疑似体験も行っていきます。行政との連携も緊密で、西宮市からは発達障害児対応の教員研修や、保護者研修も受託しています。

【活動の経緯・特徴】

兵庫県の発達障害児の親の会で知り



子どもへのかかり指導



講演会

合った保護者が立ち上げました。発達障害児への支援・療育だけでなく、保護者への各種支援や、社会への啓発活動も行っています。一方、心理学や教育・福祉を学ぶ学生・研究員がボランティアスタッフとして活動に参加し、研究の一環としてトレーニングに参加・支援してもらっています。今後は、発達障害を持つ子どもや大人たちの「居場所づくり」を行いたいと考えています。特に、就労支援の必要性を痛感しているので、行政や企業などを巻き込んだ社会環境づくりに着手したいと思っていますが、現実には時間と費用の問題がネックとなっています。

【運営について】

行政からの委託費などで会を運営していますが、資金的には困難な状況が続いています。現在5人のトレーナーがいるほか、あと5人がもうすぐトレーナーになれるような状況なのですが、満足な報酬を支払える状況ではありません。

【受賞の言葉】

このたびは未来賞を授与していただきありがとうございます。母親たちが始めた小さな活動を評価していただきうれしく思っております。発達障害の子どもたちだけでなくすべての子どもとお母さんが良い笑顔になれるように、これからもがんばりたいと思います。



コーディネーショントレーニング

足立 綾子（お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科）

研究テーマ 古今和歌集時代（十世紀前後頃）の屏風歌

—女性の関わりを視野に入れて—



屏風歌とは、9世紀ごろから屏風絵の賛として書かれた和歌であり、特に、古今和歌集時代に盛んに詠まれ、その撰者であり当代の著名な歌人である紀貫之、凡河内躬恒や、女流歌人・伊勢らの作品が残されている。屏風歌を通して、絵と和歌と書を楽しむという当時の文芸の解明を目的とする。また、屏風歌には歌人を含め女性が多くかわっているが、その働きや意味についても考察したい。屏風歌研究は、まだまだこれからの分野で、先駆的成果をあげたいと思っている。

【受賞の言葉】

このたびは、助成対象者に選んでいただきありがとうございました。人文・社会科学分野の学生である私にとって、このような支援は、経済的にも精神的にも、本当にありがたく、励みとなるものです。今回の受賞を支えとして、子育てと研究を両立させて頑張りたいと思います。

稲葉 千賀（尚美学園大学 芸術情報学部 音楽表現学科）

研究テーマ 流産・死産経験者へのグリーフケア（悲嘆援助）を目的とした

音楽療法のアセスメント表と評価表の研究



日本では、年間の死産が約4万件、流産約30万件といわれますが、経験者へのケアは少ないのが現状です。これらの人たちの悲嘆を和らげ回復を目的とした音楽療法の基礎的研究を行い、アセスメント表および評価表を作成することを目的としています。この助成金では主に、特別な音楽経験のない

方々でも演奏できる音楽療法専用の特殊楽器や機材を購入させていただき、今回の研究が終了しても、悲嘆に苦しむ方々に役立つ研究を続ける予定です。

【受賞の言葉】

このたびは、助成金対象者に選ばれ心よりうれしく思います。この支援事業の関係者の皆さま、推薦者の先生方やこれまで指導してくださった先生方、また、いつも温かくサポートしてくれる家族に感謝いたします。子育てをしながら、社会に貢献できるように音楽療法の実践的研究を進めていきたいと思えます。

吉良 智子（千葉大学大学院 社会文化科学研究科）

研究テーマ 近代日本における女性美術家の連帯と戦争参画に関する研究



アジア・太平洋戦争期には、男性画家を中心とした陸軍美術協会などが結成され著名な画家もいたために、戦争とのかわり方がある程度認知されている。一方、女性の洋画家の間でも女流美術家奉公隊が結成されていたが、あまり知られていない。もともと社会的な地位の低かった女性美術家たちが、戦争に参与する形でその存在感を高めようとしたことや彼女たちの手による共同制作の検証などを行いたい。ほかに研究する人がほとんどいない分野なので、資料の収集などにも困難があるが、2年間で一定の成果を出し、今後につなげていきたい。

【受賞の言葉】

このたびは助成対象者に選んでいただき、誠にありがとうございました。出産育児をしながらの研究生活にとまどいを感じておりましたが、今回の受賞によって自分の研究をあきらめずに続ける方向へと大きく背中を押してもらった気がします。実りある研究成果が挙げられるように努力いたします。

合田 美穂（香港中文大学 歴史学科兼日本研究学科（非常勤））

研究テーマ 中華社会および日本における高機能広汎性発達障害児の

支援ニーズ・実態の比較と特別支援教育・福祉の普及を目指した実践的研究



自閉症やアスペルガー症候群をはじめとする広汎性発達障害児のうちの、知的障がいを伴わない高機能広汎性発達障害児の多くは、障がいと気付かれず通常教育の中で不適応を呈していることが多い。日本では、近年、本格的な支援への取り組みが始まっているが、中華社会では対応が遅れている。

両地域の支援実態を調査し、中華社会の現状に即した広汎性発達障害児に関する冊子を作成し、発達障がいのある中華社会の子ども（主に香港や在日中国人）および在外邦人の子どものために役立てたい。

【受賞の言葉】

このたび助成対象者に選んでいただきましてありがとうございました。この助成事業を企画してくださった方々、審査員の先生方支えてくれたる家族、応援してくださっている先生方……全ての方々々に感謝の気持ちでいっぱいです。この研究が社会への貢献につながるように努力したいと思っております。

小林 奈緒子〔島根大学附属図書館〕

研究テーマ

戦後社会運動史における戦災者組織の実態と歴史的位置

―全国戦災者同盟と戦災者生活擁護同盟を中心に―



終戦後、戦災者の生活を守ることを目的として、戦災者組織が結成された。戦災者組織の基礎的研究を進め、近年になりようやく盛んになっている戦後社会運動史研究をさらに発展させたい。出身地の長崎における被爆者運動の研究を卒業論文とし、社会人を経験して、結婚後、島根大学大学院に社会人入学し、修士論文で「長崎の戦災者組織と被爆者運動」をまとめた。現在は、地方における同様の他の事例を掘り起こすとともに、戦災者と生活記録運動とのかわりをテーマとして研究を続けている。

【受賞の言葉】

このたびは助成対象者に選んでいただき、ありがとうございます。今回の助成により、地方でも子育てしつつ、研究を続けられる可能性が開けたように感じています。育児を楽しみつつ、しっかりと研究成果を出せるよう、まい進したいと思います。

田崎 直美〔お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科研究員〕

研究テーマ

被占領からの復興の記憶

フランス第四共和制期パリにおける音楽活動状況の検証



フランス政府が1959年から文化の民主化政策を積極的に推進したことは、比較的知られている。しかし、そこに至るまでの間、特に、第二次世界大戦とその直後の急激な政変（占領・解放）による価値観の混乱期を経て、人々はいかに文化の民主化（大衆化）の必要性へと立ち返ったのか。本研究ではこれまで「証言」の少なさをゆえ、振り返られなかった芸術音楽分野を対象として、パリを拠点とする当時のさまざまな音楽活動記録の調査より、この一過程を具体的に検証する萌芽的な研究である。

【受賞の言葉】

今回の受賞は、女性の多様な生き方を認めていただけただけで大きな励みとなりました。国外調査を伴う研究と育児との両立には物理的・精神的困難が付きまといまふ。しかし、支えてくださる方々への感謝の念を胸に、子どもにも希望を与え、社会に貢献できる研究活動を行いたいと思っております。

中野 有希子〔筑波大学大学院 人文社会科学研究科〕

研究テーマ

ナチス期における強制収容所の音楽活動とユダヤ人作曲家ウィクトール・ウルマン―ナシヨナリズムと自我の問題



ナチス・ドイツの一部の強制収容所では、ユダヤ人による芸術活動が行われた。それはやがて当局によって許可され、プロバガンダ政策の一端を担うこととなり、ユダヤ人虐殺の実態を隠すための「ユダヤ人保護政策」としての宣伝に利用された。芸術家たちの「ユダヤ人としての自我」が極限状況でいかに変遷したのか、また、その活動を当局側が宣伝するに際し、いかなる情報操作が行われたのかを明らかにしたい。民族迫害とそれにかかわる国家や集団が依然として存在する現代世界を読み解くヒントになればと思う。

【受賞の言葉】

このたびは貴プロジェクトの助成対象者にお選びいただき、ありがとうございます。子育てと研究の両立の難しさを感じる毎日ですが、今回の受賞を励みに日々努めていきたいと思ひます。審査員の先生方と企画ご担当の方々、推薦してくださった先生方、そして、いつも応援してくれている家族に感謝しています。

野澤 暁子〔名古屋大学 文学研究科総合人文学コース博士課程後期〕

研究テーマ

「主婦はいない」パリ島の育児生活における歌の役割

～男性中心の音楽文化で母から子へ伝承されるもの～



伝統音楽「ガムラン」で有名なインドネシア・バリ島では、楽器演奏は慣習的に男性の文化とされています。そこで、本研究は、女性たちのもつ「歌」という音楽文化に着目しました。特に、子守唄や童謡を取り上げ、育児を通じて母から子へ伝承される感性や、人の成長過程における歌の価値を考察します。また、バリの女性は男性と同等に働きながら、家事・育児をも担っています。生活様式の観察から、バリの育児文化の特徴についても明らかにしたいと思います。

【受賞の言葉】

今回は本当にありがとうございました。この受賞は何より、これまで母親のバリ島現地調査に同行し、異文化の環境で頑張った子どもたち（長男・5歳、次男・10カ月）の功績です。研究と育児を支えてくれる全ての人々に感謝するとともに、子どもたちのパワーに負けない魅力的な成果を出せるよう、尽力したいと思います。

パイチャゼ スウェトラン「北海道大学大学院 国際広報メディア研究院」

研究テーマ 多文化・多言語教育政策と教育現場の現状

(ポリア、ヨーロッパと日本の比較分析)



海外での事例をもとに日本の外国語・国際理解教育施策、外国人受け入れ施策を考察、分析し、日本の多言語多文化教育の新たな基準のあり方を示し、カリキュラム開発について提案したい。イギリスでは東ヨーロッパからの移民の受け入れが進んでおり、現在連絡を取り合って調査を進めている。国内でも海外からの受け入れが進んでいる大阪などの地域の調査を進めたい。また、北海道で行っている外国人児童サポート・国際理解教育の発展のための活動も充実させたい。

【受賞の言葉】

今の研究テーマは、日本で子どもが生まれたから行うようになり、家族がいるからこそ研究を続けたいと思います。このたびは、「スミセイ女性研究者支援」の対象者に選んでいただき誠にありがとうございました。よりよい結果を出せるように頑張りたいと思います。

馬場 わかな「東京外国語大学大学院 地域文化研究科博士後期課程」

研究テーマ 疾病・医療からみるドイツ社会国家の生成



日本という福祉国家を、ドイツでは社会国家といえます。疾病の状況や医療のあり方を入り口として、日本という福祉国家の生成過程とその特質を説明することを目的とし、ドイツを研究対象としています。すでに同様のテーマで論文を執筆しましたが、福祉国家研究には少なからぬ先行研究の蓄積があるものの、疾病や医療という観点から切り込んだものは決して多くはありません。今後は、ドイツでの調査も加味して、基礎的なデータ収集などにも時間をかけ、あと2年程度で研究成果をまとめたいと思っています。

【受賞の言葉】

このたびは助成対象に選んでいただき、心より感謝申し上げます。私は、子どもの病気やそのケアを事例として、社会政策のさまざまな制度や実践が近代化する過程について研究しております。自らの育児の経験を重ね合わせつつ、この研究テーマに取り組む、成果をあげられるよう努力していく所存です。

濱田 倫子「東京大学大学院 人文社会科学系研究科 宗教学研究室」

研究テーマ 「漢代画像石」に見る古代中国の死生観について



宗教の力が弱まってきた現代社会には、個人個人が死と向き合い、それを受け入れていかなければならない重い課題が与えられている。そこで古今東西の死生観を改めてみつめ直す作業が求められている。かつての日本ともかわりのある中国の古代からの死生観について、古墳壁画や副葬品の造型等の調査から研究し、現代のわれわれがよりよく生きるための参考になればと考えている。今後もこの研究を続け、将来的には生命倫理等の研究にまで分野を広げたいと思っている。

【受賞の言葉】

このたびは助成対象者に選んでいただきありがとうございます。広く「人間の生死」について研究していますので、出産や育児そして近親者の看病など私生活で生じる問題は、未熟な研究者としての自分をも深めてくれるものであると信じています。いつも応援してくださる方々に感謝したい気持ちでいっぱいです。

エッセイ・コンクール



子育て支援活動の表彰



女性研究者への支援



第1回「未来を築く子育てプロジェクト」表彰式・懇親会の様子

報告

第1回「未来を築く子育てプロジェクト」の表彰式および懇親会は、2008年2月18日(月)ホテルニューオータニにおいて開催されました。



堀田力実行委員長の挨拶



上川陽子大臣のご挨拶



村木厚子審議官のご挨拶



受賞者と実行委員の記念写真



懇親会

厚生労働大臣賞・未来大賞

NPO法人 ワニワニクラブの仲間達の会

受賞によって、ボランティアたちは十分報われたと喜んでくれました。副賞は、昼食時などに使うテーブルが古くて重く扱いにくかったので、念願の折りたたみ木製の座卓の購入に使用しました。また、古くなってしまった木製のおもちゃを新しくできました。



念願の座卓を10本購入



パフ・ファミリーを招いての公演

さらに、毎年7月に開いている音楽会は、NPO法人化7周年記念として、札幌からプロの音楽集団「パフ・ファミリー」を招いて公演を行い、多くの人たちに喜んでもらえました。

未来賞

NPO法人子育て支援センター ちびっこはうす

受賞については、新聞等で大きく取り上げていただいたため、県内にも広く知れ渡ることとなり、たくさんの方の励ましやお褒めの言葉をいただきました。「まちごと子育て応援団」を開催させていただいているショッピングセンター、山梨県関係者にも大変喜んでいただきました。やはり、県内だけでなく、全国区で認めていただけたということは、私たちNPO法人の喜び、ということだけにとどまらず、県民全体の喜びとなったようです。



未来賞

こどもコミュニティケア

副賞は、2009年1月にオープンした新園舎の工事費にあてさせていただきました。工事のときでないと備えられないハードがありますから、大変にありがたく、とても良い園舎ができたと思います。自分たちで内壁を塗るなど、コスト削減と「手づくり」にも取り組みました。いろいろな方にご寄付などのご支援をお願いしましたが、その際に、「未来賞」の受賞歴があることは、ご支援のみなさまの判断に力かな後押しともなっているものと思います。



未来賞

京都文教大学「助け合いの子育てネット」

「ママさんサポーター」活動を始めては5年。節目の時期にこのような素敵な賞をいただき、活動への自信と活力となりました。活動に携わってくださったすべてのお母さまとお子さん、学生の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。2008年度は約40組活動しており、50人ほどのお子さんが参加しています。最初は慣れなかったお子さんも、次第に、お姉さん・お兄さんと楽しく遊んだり、オムツを替えてもらったり、にぎやかな活動となっているようです。



「子育て支援活動の表彰」

「エッセイ・コンクール」

厚生労働大臣賞 未来大賞	NPO法人 ワニワニクラブの仲間達の会	北海道室蘭市
未来賞	NPO法人 子育て支援センターちびっこはうす	山梨県甲府市
未来賞	こどもコミュニティケア	兵庫県神戸市
未来賞	京都文教大学「助け合いの子育てネット」	京都府宇治市
未来賞	特定非営利活動法人 とんだばやし国際交流協会	大阪府富田林市
未来賞	特定非営利活動法人 ふれあいネットひらかた	大阪府枚方市

厚生労働大臣賞 最優秀賞	中村 佑美	育児じゃなくて…育自!	大阪府
最優秀賞	有田 秀樹	ぜーんぶ親が洗や	大分県
最優秀賞	河村 理江子	独りじゃない子育て	大阪府
最優秀賞	菅沼 孝治	親父の勘違い	兵庫県
最優秀賞	藤井 規子	そとむすこ 外息子	愛知県

未来賞

特定非営利活動法人 とんだばやし国際交流協会

本受賞を記念し「多文化共生をめざして〜外国にルーツを持つ子どもたちの未来を考えると」と題する講演会を実施。約130人が集いました。夏には、サマースクールも実施。子ども、保護者、教員、他関連団体関係者など約230人が参加しました。外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援と仲間づくり、保護者を含めた交流ができたほか、それぞれのルーツを尊重する場にもなり、貴重な体験を提供することができ非常にうれしく感じています。



サマースクールの様子

未来賞

特定非営利活動法人 ふれあいネットひらかた

1階の空き店舗を改装して昨年8月に料理室をオープンしました。子どもが安心・安全に料理ができるように、調理台の下には収納式の踏み台を設置し、火を使わないIHコンロを2台と低い流し台を設置。包丁、まな板などの調理器具や茶碗、皿などの食器は子ども用を揃え、ママが子連れで参加できるようにキッズコーナーをつくり、赤ちゃんを寝かせられることができるスペースをつくりました。このような改装費の一部に副賞を使わせていただきました。



踏み台が収納された調理台



子ども用に低い流し台

田中 美和

研究テーマ 金型産業における技能および技術継承者への取り組み

人材確保、人材育成、経営者と管理者集団の果たす役割の視点から



二人の子どもたちは、母親が調査で留守にすることが多くなってきたにもかかわらず、その分時々留守をお願いするベビーシッターさんなどいろいろな方と接することで、たくましくなってきたと感じています。少しずつですが私の研究にも興味を持ってくれるようになりました。「今日は何をつくる工場に行ってきたの?」と子どもが質問してくれると、ちょっと嬉しくなります。これからも子どもたちと一緒に成長していくように頑張りたいなと思います。

旦 直子

研究テーマ 乳児におけるテレビの中の人物理解の認知発達過程

人物理解の認知発達過程



夫が単身赴任になったことで、研究と子育ての両立はますます大変になりましたが、いただいた助成金のおかげで、ファミリーサポートやシッターの方に学校や保育所までの送迎や子どもたちのお世話を手伝っていたことができ、とても助かっています。9月には第三子となる長女が生まれました。5年ぶりに生まれた赤ちゃんを見ると、自分自身の赤ちゃん研究のヒントになるような興味深い行動に改めて気付かされます。赤ちゃんをじっくり観察できるよい機会なので、子育てを研究に生かしていきたいと思っています。

「女性研究者への支援」

麻生 典子	乳児に対する母親のネガティブタッチ評定尺度作成の試み＝児童虐待予防の観点から＝
井上 のぞみ	ジャン＝ジャック・ルソーの思想におけるヒロイズムの概念
小野 史	「飽食」下における現代的「飢餓」進行要因の究明＝経済的・文化的要素の交差としての食生活＝
東海林 亜矢子	場から見る日本古代王権と后
田中 美和	金型産業における技能および技術継承者への取り組み
多和田 真理子	明治期の小学校設置・運営と地域構造
旦 直子	乳児におけるテレビの中の人物理解の認知発達過程
中原 朝子	女性パートタイマーにおける「自発的選択仮説」の再検討
藤田 嘉代子	男性の家事労働に関する実証的研究
古屋 肇子	看護師のストレス評価システムの開発